



—第86回— 全国学校歯科保健研究大会 やまなし

令和4年10月20日(木)第86回全国学校歯科保健研究大会が、大会史上初のハイブリッド形式により、山梨県・YCC県民文化ホールを会場として開催された。なお、領域別研究協議会(5領域)については、ライブ配信終了後から「オンデマンド配信」において行われた。今大会の主題『口腔から全身の健康づくりを目指して』、副題『未来の生活を支える学校歯科保健』のもと、講演や研究発表が行われた。

開会式・表彰式

当日は12時から大森一令大会実行委員長による開会の言葉があり、国歌斉唱が行われた。引き続き、主催者を代表して、永岡桂子文部科学大臣(代理：矢幅清司初等中等教育局視学官)、大会会長の川本強会長、実行委員会会長の(一社)山梨県歯科医師会の三森幹夫会長、(公財)日本学校保健会の中川俊男会長(代理：弓倉整専務理事)、山梨県の長崎幸太郎知事、甲府市の樋口雄一市長から挨拶があった。来賓を代表して、

加藤勝信厚生労働大臣(代理：小嶺祐子厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室長)、(公社)日本歯科医師会の堀憲郎会長(代理：佐藤保副会長)から祝辞をいただいた後、来賓が紹介された。

表彰式に移り、第61回全日本学校歯科保健優良校表彰 ▶P.15 が行われた。優秀賞(文部科学大臣賞)は7校(園)、日本学校歯科医会会長賞は7校(園)、日本歯科医師会会長賞は10校(園)、奨励賞は87校(園)がそれぞれ受賞し、文部科学省の矢幅清司初等中等教育局視学官、川本強会長、(公社)日本歯科医師会の佐



大森一令
大会実行委員長
山梨県歯科医師会副会長



矢幅清司
文部科学省初等中等教育局視学官



川本 強
大会会長
日本学校歯科医会会長



三森幹夫
大会実行委員会会長
山梨県歯科医師会会長



弓倉 整
日本学校保健会専務理事

矢幅清司初等中等教育局視学官による
優秀賞(文部科学大臣賞)の授与川本 強会長による
日本学校歯科医会会長賞の授与佐藤 保副会長による
日本歯科医師会会長賞の授与

受賞校代表 穂坂洋紀先生による謝辞



壇上の第61回全日本学校歯科保健優良校表彰受賞者

藤保副会長から賞状・記念品が授与された。全受賞校(園)を代表して、山梨県市川三郷町立市川南小学校の穂坂洋紀校長が謝辞を述べた。その後、祝電が披露され、齋藤秀子副会長が閉式の言葉を述べた。

特別講演

13時15分から「マリ共和国農村部における人々の健康づくりについて」の演題で、歯科医師であり日本歯科大学名誉博士であるカラ=西アフリカ農村自立協力会代表の村上一枝先生による特別講演が行われた。

村上先生はマリ共和国農村部への支援を継続的に行っている。都会を支える地方の農村の人たちにとっては、学校に行くよりも毎日生きていくための食べ物を得ることが重要であり、最終学年まで通える女の子はいないという。雨季が始まると農作が始まるので親を手伝うため高学年から休み、出稼ぎの男たちが帰ってくるとエイズも蔓延する。そんな場所で村上先生は学校設立やエイズ予防のプロジェクトなどをされており、その活動内容をご紹介いただいた。それ以外にも森林伐採に

対しては自然環境保全教育を、女性の収入獲得や適正技術のための指導も行われており、習得した文字活用のため病気予防標示版の設置、マラリア予防薬や腸内寄生虫駆除薬の投与、公衆トイレの建設など病気の予防についての活動も行われている。地元の人から、「何も知らないということは、ひどい病気にかかっているのと同じことだ」と言われたことが心に残っているという。字を覚えたい人は年齢問わず受け入れる識字教室を設置することにも尽力されており、さらに産院を18箇所ほど開院するサポートもされている。また、村ごとに女性健康普及員を育成して、村の母親たちに現地の人が教育する仕組みづくりをされており、それによって村に正しい知識が普及し、予防接種を抵抗なく受けさせ、栄養の問題やお年寄のケアを指導させた事例をご紹介いただいた。現地の女性たちも、学べばお金が稼げることを知り、自立してきたという。村上先生は活動が続けることが大切ではなく自立させることが大切だという。その結果、新型コロナウイルス感染症やクーデターの影響により支援が少なくなっても活動は続いており、女兒

長崎幸太郎
山梨県知事樋口雄一
甲府市市長小嶺祐子
厚生労働省医政局歯科保健課
歯科口腔保健推進室長佐藤 保
日本歯科医師会副会長齋藤秀子
日本学校歯科医会副会長



村上一枝先生による特別講演

村上一枝
日本歯科大学名誉博士

の就学率が男児を上回るようになり、新たな産院ができるという。村上先生は最後に、世界の約3分の2はこういった状況の国々であり、今後も支援活動が必要であることを訴えられた。

シンポジウム

14時30分から、野村圭介副会長の座長のもとで「健康診断後の事後措置の展開について」をテーマにシンポジウムが行われた。基調講演では、明海大学の安井利一学長が、「健康診断後の事後措置の展開について～歯・口腔の健康診断から自律的自己管理能力の向上を図る事後措置の考え方～」をテーマに講演された。シンポジストとして、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官の松崎美枝先生が「健康診断後の事後措置の展開について」を、足立区立第十中学校主幹養護教諭の平澤規子先生が「子供の心と体がわかる学校歯科健康診断とその事後措置」を、東京都学校歯科医会の鈴木博会長が「事後措置の展開について～学校歯科医の立場から～」を16時30分まで発表された。

基調講演で安井利一先生は、健康診断とは子供たちがリスクの上を歩いている途中の一点を見ただけであり、その日の状況だけで全てを決定するのは難しいと述べられた。そのため、事後措置を見据えた健康診断が重要であり、それには学校歯科医の考え方が大切であると講演された。鼻の病気や口唇閉鎖不全、機能不全から不正咬合が起こることは周知の事実であるが、歯列の状態が歯肉炎やう蝕の発生にも関連しているという調査結果を報告された。事後措置では思考力や行動力が伴っていく指導が大切であり、自分の体が出したサイン(COやGO、不正咬合)を見逃さず、自分の健康状態を確認する習慣を育成する必要があることを強調された。

シンポジストの松崎美枝先生は、学校における健康診断の法的位置付けを発表された。また、健康診断情報の電子化として、校務支援システムを活用し迅速に結果を集計して指導ができる事例を報告された。平澤規子先生は、足立区における地域の取組について発表された。児童自らが行う歯・口の健康づくりのための保

野村圭介
シンポジウム座長
日本学校歯科医会副会長安井利一
基調講演
明海大学学長松崎美枝
文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課健康教育調査官平澤規子
足立区立第十中学校
主幹養護教諭鈴木 博
東京都学校歯科医会会長



ポスター発表 会場展示の様子



健教育を行っており、それには関係職種の足並みが揃うことが重要であること、ハイリスクグループに対する保健教育が今後の課題であると述べられた。また、鈴木博先生は歯列・咬合における事後措置について発表された。その中で不正咬合の健康診断時に心得おくこととして保護者への勧告に対する解釈について、治療費負担の問題について、不正咬合の健康相談のあり方について述べられた。また、歯列・咬合について特集した日学歯会誌132号の紹介もされた。ディスカッションでは野村副会長主導のもと事後措置における電子媒体活用について意見交換がなされた。口腔保健は全身の健康づくりに関わっており、そのための事後措置としてICTを利用していくことが重要であると述べられた。

ポスター発表

今回は、全国から12演題のポスター発表があり、会場展示とオンライン配信のハイブリッド形式にて行われた。

閉会式

16時45分から、次期開催地報告が川本強会長からあり、川本強会長と大阪府学校歯科連合会を代表して(一社)大阪府歯科医師会の深田拓司会長の間で「学校歯科の鐘」の引継ぎが行われた。その後、次期開催地代表として深田拓司会長が挨拶を述べられ、次期開催地の紹介映像がスクリーンに映し出された。最後に、柘植紳平副会長が閉会の言葉を述べて大会を閉じた。

(広報委員会委員・夫馬吉啓)



学校歯科の鐘



深田拓司
大阪府歯科医師会会長



柘植紳平
日本学校歯科医会副会長



「学校歯科の鐘」の引継ぎを終えて
(左から)大阪府歯科医師会 深田拓司会長、大阪府学校歯科医会 上田直克会長、
大阪市学校歯科医会 西本達哉会長

領域別研究協議会

※第86回全国学校歯科保健研究大会の領域別研究協議会（5領域）の様子は、10月20日（木）のライブ配信終了後から11月20日（日）17：00までオンデマンド配信された。

幼稚園 認定こども園 保育所

部会

司会：一般社団法人 山梨県歯科医師会
学校歯科部委員会 委員 石川 真也 氏
座長：公益社団法人 日本学校歯科医会
理事 新津 恒太 氏
発表者①：学校法人 聖愛幼稚園 認定こども園
聖愛幼稚園 副園長 安藤 由子 氏
発表者②：大阪市立菅南幼稚園
養護教諭 山口 彰子 氏
アドバイザー：神奈川歯科大学歯学部小児歯科学講座
教授 木本 茂成 氏



小学校

部会

司会：一般社団法人 山梨県歯科医師会
学校歯科部委員会 委員 佐野 猛 氏
座長：公益社団法人 日本学校歯科医会
理事 松野 才 氏
発表者①：甲斐市立竜王南小学校
養護教諭 堀之内恵美 氏
発表者②：喜多方市立第一小学校
養護教諭 長谷川めぐみ 氏
アドバイザー：鶴見大学歯学部小児歯科学講座
教授 朝田 芳信 氏



中学校

部会

司会：一般社団法人 山梨県歯科医師会
学校歯科部委員会 委員 小屋 忠崇 氏
座長：公益社団法人 日本学校歯科医会
理事 柴田 宏 氏
発表者①：忍野村立忍野中学校
養護教諭 和田あずさ 氏
山中湖村立山中湖中学校
養護教諭 村田 美幸 氏
発表者②：東吾妻町立東吾妻中学校
養護教諭 小坂橋智恵子 氏
アドバイザー：日本大学歯学部衛生学講座
教授 川戸 貴行 氏



高等学校

部会

司会：一般社団法人 山梨県歯科医師会
学校歯科部委員会 委員 佐藤 昇 氏
座長：公益社団法人 日本学校歯科医会
理事 藤本 洋士 氏
発表者①：山梨英和高等学校
養護教諭 飯島みゆき 氏
発表者②：鹿児島県立曾於高等学校
養護教諭 實方めぐみ 氏
アドバイザー：東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科
健康推進歯学分野 教授 相田 潤 氏



特別支援教育

部会

司会：一般社団法人 山梨県歯科医師会
学校歯科部委員会 副委員長 川出 昭夫 氏
座長：公益社団法人 日本学校歯科医会
理事 竹中 博 氏
発表者①：山梨県立甲府支援学校
養護教諭 小野寺海大 氏
発表者②：青森県立森田養護学校
養護教諭 板垣ひさこ 氏
アドバイザー：昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座
口腔衛生学部門 教授 弘中 祥司 氏



※この協議会がご縁で繋がった学校によるオンライン交流会の様子を「つなぐシリーズ」▶P.3に掲載しています

第86回全国学校歯科保健研究大会(オンデマンド配信) 領域別研究協議会「中学校部会」を視聴して

今年の全国学校歯科保健研究大会はコロナ感染防止対策として、初の試みとなるハイブリッド開催で行われました。領域別研究協議会は事前録画をYouTubeで配信・視聴する方式となり、その中で中学校部会を視聴いたしました。座長の日本学校歯科医会・柴田宏理事、アドバイザーの日本大学歯学部衛生学講座・川戸貴行教授のもと、共同発表を含めて3校の中学校から研究発表が行われました。

まず初めに、アドバイザーの川戸教授から「中学校の歯科保健と歯周病予防」と題して、導入の仕方について講演が行われました。「生きる力」を育む学校での歯・口の健康づくりにおける子供の心身の発育・発達段階に応じた課題として、「咀嚼と体の働きや健康とのかかわりの理解」「歯周病の原因と生活習慣の改善方法の理解と実践」「第二大臼歯および歯の隣接面のむし歯の予防方法の理解」「歯周病や口臭の原因と予防等に関する理解」「自分にあった歯・口の清掃方法の確立」「運動やスポーツでの外傷の予防の意義」「方法の理解と実践」等が提示され、これらの項目の中から、むし歯とともに中学生に好発する歯周病に着目し、その特徴についてのお話がありました。歯周病と生活習慣について、歯周病のリスクは宿主要因、すなわち体の抵抗力等は栄養や休養の影響を強く受けるということ、また、細菌要因は日常の歯みがき習慣でコントロールできることや、さらに、環境要因の最大のリスク因子が喫煙習慣であることを踏まえると、まさに歯周病は、健康に好ましい生活習慣を考える上で適したテーマであるということです。歯周病の3つのリスク要因の中では歯垢(細菌要因)の多少と歯肉の炎症の関係が分かっているので、問題発見・解決として、生徒に「どうみがけが良いかな?」「こうみがいてみようかな?」などを考えさせてみるのが大切であり、それに対して、学校歯科保健における学校歯科医の役割として、生徒の主体的な疑問・質問に正しい情報を提供していただき、解決を支援し、導入の一つとして考えて欲しいとのことでした。

研究発表①では、山梨県山中湖村立山中湖中学校養護教諭の村田美幸先生と山梨県忍野村立忍野中学校養護教諭の和田あずさ先生による共同発表が、「ともにつくりあげる健康教育を目指して～歯や口の健康について考え、自ら実践できる子供の育成～」の演題で行われました。

忍野・山中湖地区は以前から未処置歯保有率が高く、

長年の健康課題になっていました。そこで合同で「忍野・山中湖地区教育協議会」を結成し、その中の保健研究部会では、主体的に自らの健康を保持増進することのできる児童生徒の育成を目指して指導教材の活用方法などを研究しているそうです。合同研究会での取組として、(1)指導教材の作成(①模型の作成、②パワーポイント教材や視聴覚教材の作成)、(2)指導案の作成、(3)学校歯科医との連携(①学習会の実施、②個別指導用資料の作成)などが紹介されました。その後、各々の中学校での取組の説明があり、最後に、2つの地域が合同で研究会に取り組むことで充実した組織研究を行うことができることを述べて発表が終了しました。

続く研究発表②では、群馬県東吾妻町立東吾妻中学校養護教諭の小板橋智恵子先生による「健康課題の解決に主体的に取り組み、実践することのできる生徒の育成を目指して～歯と口の健康が全身の健康をつくる～」という演題のもとで研究発表が行われました。

同校は、学校教育目標を「心身ともに健康で、自ら学び、ふるさと東吾妻を愛し、心豊かでたくましい生徒を育成する」、学校保健目標を「自らの心身の健康に関心を持ち、生涯を通じて自らの健康を適切に管理できる生徒の育成」とし、その中で歯科保健目標を「歯と口の健康課題を明らかにし、課題解決能力を向上させて、課題を解決しようとする生徒の育成を目指す」としています。歯科保健活動の概要として、(1)主体的な歯科健康診断の工夫、(2)経過観察健康診断と「経過観察票」、(3)歯科に係る学級活動と日常の保健指導、(4)給食後の歯みがき指導、(5)生徒保健委員会が主体的に行う「歯と口の健康集会」、(6)歯垢染め出しと「歯の観察カード」の活用、(7)「予約しましたよカード」の活用、(8)関係機関との連携等の各取組について、積極的に生徒が行っている模様が紹介されました。まとめとして、「歯は健康の窓口であり、歯の健康が全身の健康を作る」を基本の考えとする継続した取組を行ってきたことで、同校の歯科保健活動は定着したとのお話がありました。

最後に川戸教授から、中学生は最後臼歯の第二大臼歯が萌出する時期にあたりむし歯リスクが高くなるので、歯周病の罹患も観察しながら注意が必要であること。また、コロナ時代でなかなか地域での保健委員会活動もできなくなっていること、マスクをする習慣のもと、子供たちの口腔内の変化を十二分に注意することが必要であると話し、中学校部会は終了した。

(広報委員会委員長・大林裕明)

令和4年度

全国学校保健・安全研究大会

第72回

全国学校歯科医協議会 岩手県

■ 令和4年度 全国学校保健・安全研究大会

令和4年11月10日(木)・11日(金)、岩手県盛岡市の盛岡市民文化ホール・いわて県民情報交流センターとWEB配信のハイブリッド開催により、「生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進～多様化する健康課題の解決に向けて主体的に取り組む子供の育成～」という主題のもと、令和4年度全国学校保健・安全研究大会が開催された。

10日の開会式では、永岡桂子文部科学大臣(代理)、公益財団法人日本学校保健会の中川俊男会長、岩手県教育委員会の佐藤博教育長の挨拶の後、表彰式が行われ、46名の学校歯科医を含む学校医 ▶P.20、学校薬剤師、学校長等が学校保健・学校安全の功労者として文部科学大臣表彰を受賞された。



全体会記念講演では、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の富永良喜特任教授が「災害などで傷ついた子供の回復支援と心の健康教育」という演題で講演された。
(広報委員会委員・佐藤 晶)

課題別研究協議会

第5 課題

歯・口の健康づくり

11日午前の課題別研究協議会の第5課題「歯・口の健康づくり」では、「生涯にわたる健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの進め方」として、講師に公益社団法人日本学校歯科医会の柘植紳平副会長、指導助言者(コーディネーター)として鹿児島県教育庁保健体育科の楠生勝宏主任指導主事兼係長のもと、以下の研究発表が行われた。

- ① 岩手県立大東高等学校の熊谷博伸学校歯科医と内館優香養護教諭が、「生涯にわたり自分を大切にできる生徒の育成～学校歯科医と連携した効果的な歯科保健指導の実践を通して～」と題し、アンケート調査から得られた生徒の実態に即した歯科保健指導の取組や歯科健康診断アプリの活用、小中高の連携などについて発表された。

- ② 鹿児島県鹿児島市立山下小学校の谷口由美養護教諭が、「児童が主体的に取り組む歯・口の健康づくり～自己管理能力を育む学校保健の充実～」と題し、歯科健康診断の充実を図り健康に関する興味・関心をより高め、自分の課題に合った歯・口の健康づくりに取り組んでいると発表された。
- ③ 秋田県鹿角市立八幡平中学校の安保真美養護教諭(代理：井上希代子養護教諭)が、「自らの健康課題に気づき、主体的に健康づくりに取り組む生徒の育成～地域のつながりを通じた歯・口の健康教育～」と題し、地区にプロジェクトチームを設立し、認定こども園・小・中の連携を強化することで地域全体で成果を上げていると発表された。

次いで、楠生勝宏主任指導主事兼係長の指導助言が行われた。

最後に、柘植紳平副会長による「健康は歯から口から笑顔から～すぐに役立つコロナ禍でも出来る歯・口の健康づくり～」と題する講義が行われた。

(広報委員会委員・佐藤 晶)



公益社団法人日本学校歯科医会
副会長
柘植紳平



鹿児島県教育庁保健体育課
主任指導主事兼係長
楠生勝宏



岩手県立大東高等学校
学校歯科医
熊谷博伸



岩手県立大東高等学校
養護教諭
内館優香



鹿児島県鹿児島市立山下小学校
養護教諭
谷口由美



秋田県鹿角市立八幡平小学校
養護教諭
井上希代子(代理)

課題別研究協議会

第4課題

現代的健康課題

11日午前の課題別研究協議会の第4課題「現代的健康課題」では、講師に横浜国立大学教育学部の物部博文教授、指導助言者（コーディネーター）として品川区教育委員会指導課の唐澤好彦統括指導主事のもと、以下の研究発表が行われた。

- ①群馬県高崎市立倉渕中学校の花岡芳幸保健主事、
②岩手県立花巻北高等学校の藤枝覚教諭、③宮城県

仙沼市立九条小学校の斉藤綾養護教諭が、それぞれの学校で工夫された特色ある実践について、成果と課題が発表された。

最後に、物部博文教授による「現代的な健康課題に児童生徒が挑戦するような学校活動を」と題する講義が行われ、イメージを絵で描かせたり、穴埋め問題や問題場面の提示をして、隣席の受講者と共同してお互いに考えさせる場面もあった。久しぶりの対面開催ならではの新しい講演形式であった。

（広報委員会副委員長・高橋裕幸）

課題別研究協議会

第3課題

心の健康

11日午後の第3課題「心の健康」では、講師に京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻の十一元三教授、指導助言者（コーディネーター）として福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課の宗真由美指導主事のもと、以下の研究発表が行われた。

- ①岩手県陸前高田市立高田小学校の中島和孝副校長が、「周りとの「つながり」を感じ、主体的に生きる子供の育成～『つながる つなげる 高田学』の学習を通じて～」を研究発表された。東日本大震災から10年を

経て、児童のほとんどが震災後に誕生しており、一種の支援慣れの状況から脱却するための取組が課題の一つとして挙げられていることに驚きつつも、新たな発見を感じた。終わりに、高田小学校の子供たちにエールを送って結ばれた。

- ②宮城県仙台市立松陵中学校の及川典子養護教諭、
③京都府京都市立紫野高等学校の坂尾淳子養護教諭が、それぞれ特色ある実践について発表された。課題詳細については、大会要項を参照していただきたい。

最後に、十一元三教授による「児童生徒のメンタルヘルスを理解に必要な基礎知識」と題した講義が行われた。

（広報委員会副委員長・高橋裕幸）

課題別研究協議会

第10課題

関係機関等との連携による安全の体制整備

11日午後の課題別研究協議会の第10課題「関係機関等との連携による安全の体制整備」では、「学校・家庭・地域が連携した効果的な安全体制整備の在り方と通学路における安全確保の方策について」を協議題として、講師に東北大学災害科学国際研究所の佐藤健教授、指導助言者（コーディネーター）として岡山県教育委員会岡山教育事務の木下史子総括参事のもと、以下の研究発表が行われた。

- ① 宮城県石巻市立河北中学校の小野寺淳一教頭が、「学校安全推進体制の構築」と題し、令和3年度にSPS（セーフティ・プロモーション・スクール）の認証を受け、生活安全、災害安全、交通安全の3領域での具体的な活動について発表された。
② 福島県立郡山北工業高等学校の大森史仁教諭が、

「自転車事故ゼロを目指して」と題し、地域の専門家の協力のもと自転車運転免許制度講習会を実施し、事故防止の意識が更に向上したと発表された。

- ③ 岩手県八幡平市立柏台小学校の佐々木寿子副校長が、「地域や関係機関等と連携した防災・復興教育のとりくみ」と題し、地域や関係機関等と連携しながらの防災・復興教育について「いきる」「かかわる」「そなえる」それぞれの活動について発表された。

次いで、木下史子総括参事の指導助言が行われ、最後に佐藤健教授による「関係機関等と連携による安全の体制整備～学校と地域、大人と子どもと一緒に活動することによる持続可能性～」と題する講義が行われた。

（広報委員会委員・佐藤 晶）

令和4年度全国学校保健・安全研究大会 課題別研究協議会

(敬称略)

課 題		講師・指導助言者(コーディネーター)・研究発表者
第1課題	学校経営と 保健組織活動	講 師：愛知教育大学 准教授 山田浩平 指導助言者：神奈川県立総合教育センター 体育指導センター指導研究課 主幹兼指導主事 斎藤祐介 研究発表者：① 神奈川県立保土ヶ谷高等学校 教頭 阿部志織 ② 青森県南津軽郡藤崎町立明德中学校 養護教諭 森 菜穂子 ③ 岩手県二戸市立福岡小学校 指導養護教諭 永井悦子
第2課題	保健管理	講 師：公益財団法人日本学校保健会 専務理事 弓倉 整 指導助言者：長野県教育委員会事務局 保健厚生課 主任指導主事 小田切優美 研究発表者：① 北海道枝幸郡中頓別町立中頓別小学校 養護教諭 木野下珠紀 ② 岩手県立宮古恵風支援学校 教諭 千崎友里子 ③ 山梨県山梨市立後屋敷小学校 養護教諭 前嶋真理子
第3課題	心の健康	講 師：京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授 十一元三 指導助言者：福岡県教育庁 教育振興部体育スポーツ健康課 指導主事 宗 真由美 研究発表者：① 岩手県陸前高田市立高田小学校 副校長 中島和孝 ② 宮城県仙台市立松陵中学校 養護教諭 及川典子 ③ 京都府京都市立紫野高等学校 養護教諭 坂尾淳子
第4課題	健康課題 現代的健康	講 師：横浜国立大学教育学部 教授 物部博文 指導助言者：品川区教育委員会指導課 統括指導主事 唐澤好彦 研究発表者：① 群馬県高崎市立倉淵中学校 保健主事 花岡芳幸 ② 岩手県立花巻北高等学校 教諭 藤枝 覚 ③ 宮城県気仙沼市立九条小学校 養護教諭 斉藤 綾
第5課題	健康づくり 歯・口の健康	講 師：公益社団法人日本学校歯科医会 副会長 柘植紳平 指導助言者：鹿児島県教育庁保健体育課 主任指導主事兼係長 楠生勝宏 研究発表者：① 岩手県立大東高等学校 学校歯科医 熊谷博伸 / 養護教諭 内館優香 ② 鹿児島県鹿児島市立山下小学校 養護教諭 谷口由美 ③ 秋田県鹿角市立八幡平中学校 養護教諭 安保真美 (代理：井上希代子)
第6課題	学校環境衛生	講 師：横浜薬科大学 教授 小出彰宏 指導助言者：東京都教育庁 都立学校教育部学校健康推進課 環境衛生指導担当 課長代理 佐藤恭子 研究発表者：① 埼玉県立川口東高等学校 養護教諭 村上有為子 ② 北海道市立札幌開成中等教育学校 養護教諭 西村香代 ③ 岩手県盛岡市立仁王小学校 学校薬剤師 畑澤昌美 / 養護教諭 小林智美
第7課題	喫煙・飲酒、薬物 乱用防止教育	講 師：国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室 室長 嶋根卓也 指導助言者：千葉県成田市立玉造小学校 校長 塚本 武 研究発表者：① 福岡県体育研究所 指導主事 大和忠輔 ② 岩手県立宮古商工高等学校 教諭 菊池 満 ③ 福島県西白河郡西郷村立熊倉小学校 養護教諭 荒井真紀子
第8課題	学校事故 防止対策	講 師：東京工業大学工学院機械系 教授 西田佳史 指導助言者：東京都府中市立府中第二中学校 校長 高汐康浩 研究発表者：① 独立行政法人日本スポーツ振興センター 学校安全部 安全支援課 課長 田中文人 ② 群馬県立藤岡中央高等学校 教頭 新井康司 ③ 香川県善通寺市立西部小学校 教諭 津谷遼平
第9課題	教科等における 安全教育	講 師：大阪大学大学院人間科学研究科 准教授 中井 宏 指導助言者：徳島県立みなと高等学園 教頭 喜多泰信 研究発表者：① 山形県東村山郡中山町立中山中学校 教諭 菅原和宏 ② 大分県立臼杵支援学校 教諭 北山昌之 ③ 岩手県花巻市立宮野目小学校 副校長 野寺 悟 / 花巻市立宮野目中学校 教諭 佐々木茉里
第10課題	関係機関等との 連携による 安全の体制整備	講 師：東北大学 災害科学国際研究所 教授 佐藤 健 指導助言者：岡山県教育委員会 岡山教育事務所 総括参事(生涯学習課長) 木下史子 研究発表者：① 宮城県石巻市立河北中学校 教頭 小野寺淳一 ② 福島県立郡山北工業高等学校 教諭 大森史仁 ③ 岩手県八幡平市立柏台小学校 副校長 佐々木寿子

令和4年度 学校保健及び学校安全表彰被表彰者一覧

学校歯科医46名 (敬称略)		山形県 大河原泰雄	神奈川 西村 耕三	大阪府 奥田 宗義	福岡県 松藤 幸治
		福島県 佐藤 健一	新潟県 高桑 雅宣	兵庫県 溝井 啓泰	福岡県 大塚 武文
		福島県 佐藤 悦朗	石川県 蓮池 芳浩	奈良県 岡本 吉一	佐賀県 西村 健
		茨城県 岡野 房子	福井県 細井 達郎	和歌山県 山崎 一夫	長崎県 田代 雄二
		栃木県 植原 雅章	山梨県 後藤 幸延	島根県 小村 克徳	熊本県 江藤 寛文
		群馬県 信澤 良和	長野県 小野沢安正	広島県 田中 靖人	大分県 鳥谷 裕
		埼玉県 宮崎 尚弘	岐阜県 西山 知利	山口県 柴原 伸也	宮崎県 田村 俊二
		千葉県 佐藤 圭子	愛知県 早川 直義	徳島県 浦川 清秀	鹿児島県 門松 秀久
		東京都 田中 教順	滋賀県 小上 敬嗣	香川県 小西 賢二	沖縄県 護得久朝保
		東京都 新井 真澄	京都府 安岡 良介	高知県 橘 宏幸	
北海道	伊藤 雅博				
北海道	田中 義博				
北海道	田中 裕明				
青森県	吉田 洋				
岩手県	小田中健策				
宮城県	猪苗代盛昭				
宮城県	千葉 良人				

■第72回 全国学校歯科医協議会

第72回全国学校歯科医協議会が岩手県歯科医師会の主催(日本学校歯科医会との共催)により、11月10日(木) 15時30分から盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡本館にて、3年ぶりに全国から学校歯科医が集って開催された。ちなみに第70回協議会(石川県)は中止、前回(岡山県)はWeb開催であった。岩手県歯科医師会の前川秀憲副会長の開会の辞に続き、岩手県歯科医師会の佐藤保会長、日本学校歯科医会の川本強会長から挨拶があり、このような世情でありながら本協議会が開催できる喜びと「次世代を担う子供たちのために」という想いを強調された。

続いて、永岡桂子文部科学大臣(代理)、達増拓也岩手県知事、佐藤博岩手県教育委員会教育長、中川俊男日本学校保健会会長(代理)、谷藤裕明盛岡市長(代理)から来賓挨拶があった。

次に、令和4年度文部科学大臣表彰受賞者 ▶P.20 の紹介があり、熊本県御船町立御船小学校元学校歯科医の江藤寛文氏から謝辞があった。そして、岡山県歯科医師会の西岡宏樹会長から前回開催県報告、兵庫県歯



科医師会の澤田隆会長による次回開催県挨拶があった。第73回全国学校歯科医協議会は令和5年10月26日(木)に兵庫県で開催予定である。

講演は、学校法人盛岡大学文学部児童教育学科の盛島寛教授から「体育・スポーツと歯及び口腔の健康」の演題で行われ、その後、前川秀憲副会長の閉会の辞で終了した。
(広報委員会委員・郷田 浩)

講演 体育・スポーツと歯及び口腔の健康

盛岡大学文学部児童教育学科 教授 盛島 寛

岩手県では、戦後間もなくの時期は乳児の死亡率が高かったが、深沢晟雄旧沢内村村長(現岩手県和賀郡西和賀町沢内新町)の尽力により昭和35年に65歳以上の高齢者に国保の十割給付を断行、翌年1歳未満と60歳以上に国保の十割給付を拡大、そして昭和37年には地方自治体初の乳幼児死亡率ゼロの偉業を達成した。

その歴史を引き継ぎ、岩手県は県民への健康と教育に尽力してきた。その中で、良い体育授業とは、授業の内容的条件(中心的条件:目標・内容・教材・方法の計画と実行)と授業の基礎的条件(周縁的条件:学習の雰囲気と勢い)が必要で、生徒の評価だけでなく教師の相互作用行動の観察・記録による考察と肯定的・矯正のフィードバックが重要となる。



盛島 寛 教授

しかし、体育・スポーツと歯及び口腔の健康の関連については一般的な認識はそれほど高くない。歯及び口腔の健康は運動パフォーマンスに影響を与えるが、その一つにマウスガード(マウスピース)がある。外傷の影響によるパフォーマンス低下を防ぐためには、マウスガードは最高のスポーツ用具である。マウスガードを使用する上でのポイントは、①噛みしめやすさ、②左右のバランス、③噛み合わせの高さへの配慮が重要であるが、使用することの弊害も確かに存在する。プロ野球では菊池雄星選手、佐々木朗希選手、スキージャンプでは小林陵侑選手など多数の有名選手を輩出している岩手県だが、なかでも大谷翔平選手の大活躍は素晴らしい。その裏には歯及び口腔の健康への高い意識があったのではないかと考える。

また、本県の学校歯科健康診断では歯周病の低年齢化や歯列不正の増加が認められ、学習指導要領の第5学年及び第6学年にある「口腔の衛生を保つこと」など、望ましい生活習慣を身につける必要がある。